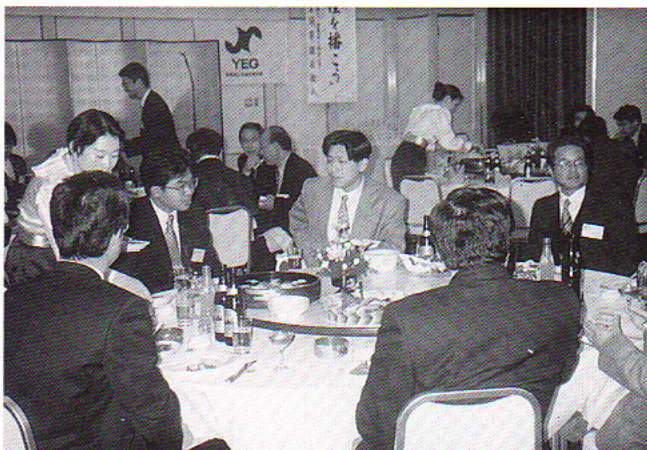




このような大変な苦勞もしましたが、まず、インドネシアで開業することを考えました。インドネシアは、異常な階級社会で、病人への対応もこれらの階級社会や、それに伴う貧富の差がそのまま現れる有様で、インドネシアでの病院開業は困難と考え、シンガポールで開業を

いう思いもかけない事になりました。こういうこともあって、現在の商工会館の隣地がまだ田圃で、もちろん、商工会館も中国電力も何もないところに病院を建てました。

当初は三階建てでしたが、隣に五階建ての商工会館建設が決まり、一念発起、莫大な借入を銀行から行い五階建ての病院の建設を行いました。それから十年間は、大変な思いで努力を致しました。一生懸命働きたつたもののどうしようもないという状況もありました。しかしこういった苦勞や、言うに言われぬ努力の甲斐もあって、建設後十年ほど致しますと何とか経営の

目処も立ってきました。そして、熟慮ののち、医者をやめる決意を致しました。今こ中学、高校の時から一生懸命勉強した経済の力を発揮しようと考えました。それはこれから、私が行っている病院をどのような形で発展させて行くかということでもありました。そのことは外国に病院を創るということでもありました。しかしこのことは筆舌に尽くしがたい困難なことでもありました。外国で病院を日本人がつくるということ

は、日本で病院をつくることより何百倍も難しいことです。それは、日本での医師免許が国際的に通用しない事を始め、すべての許可事項が問題となっていました。このような大変な苦勞もしましたが、まず、インドネシアで開業することを考えました。インドネシアは、異常な階級社会で、病人への対応もこれらの階級社会や、それに伴う貧富の差がそのまま現れる有様で、インドネシアでの病院開業は困難と考え、シンガポールで開業を

目指すことにしました。シンガポールに居を構え十五年が経過致しましたが、十五年前も今も本場にシンガポールは素晴らしい国だと考えております。シンガポールは、国の指導者が、将来の展望、目標を描き、それに向けて何をすべきかどのように国を運営して行くべきか考え、行動に移しており、またそれを国民が信頼しております。国も発展を続け、国民は、シンガポール人であることの誇りも高いのです。

このシンガポールにいて日本をみますと、日本は経済的には発展したかも知れませんが、国際的な日本の評価は、残念ながらまだまだ低いし、サミット参加国だからといって日本が一流国であるとはいえないのです。また、国際的評価もシンガポールと日本とは、日本が完全に逆転されていると言わざるを得ません。なぜそのようになったのか。今から十五年前のシンガポールの合言葉は、「東に向こう」でした。つまり東とは日本であり、第二次大戦で焦土と化し、すべてを失った状態から、三十四、五年であれだけの経済発展をしたのだから日本を見習い日本に追いつき追い越そうと言ったことでした。ところが四、五年前からは、この合言葉は陰を失いました。なぜなら、日本は閉塞状態であり、更には、日本の国そのものに目的がないからだと言われます。同じアンケートでは日本では家族に対する愛着は四十六%ですから、国に対してはもっと愛着を持つてもらいたいものです。又、企業に対する愛着も日本では四%です。誠に憂うべきことです。医師の世界も同様で、医学生はほとんどが命と対峙する科を避ける傾向にあります。情けないことです。もう一度人間としてどうすべきか、国の為はどうすべきかをもう一度考える必要があると思います。そのことを考えることが個人の幸せにつながっていくかを教える教育の必要性を徳育の必要性を痛感するのです。子供に対する教育を、家庭・学校教育共に考え直す必要があります。このままだと日本はヨーロッパの悪しき習慣のみを見習うだけの国になってしま



と、よい種を播こう。すべての人に對して。そして良いつなごいと思われ人間を目指して下さい。閉塞感の強い今の日本で、あなたが出来るか是非、皆さんの今年のテーマにしてください。